

青 星

A
O
B
O
S
H
I

2025.9
Vol.6
社会貢献特別号

ネパールに教育を。
日本には働き手を。
両者の未来を照らす
“笑顔の国づくり”に挑戦。

志プロジェクト
シャド ライ

子どもの貧困の
“本質的解決”に挑戦。
システムチェンジで
格差なき社会へ突き進む。

Learning for All 代表理事
李 炯植

アスリートキャリア支援事業
引退後も夢は描ける。
トップアスリートに
輝く第二の人生を!

NPO法人
ベトナム簿記普及推進協議会
日系企業で即活躍!
ベトナムの若者に
簿記と協働教育を。

公益財団法人
山田淳一郎奨学金財団
鹿児島から、日本を
背負って立つ人材を!
志高き若者を全力支援。

Information
大阪支店移転、
当社代表YouTube出演など

志プロジェクト

Sharad Rai

スマイル

ネパールに教育を。
日本には働き手を。
両者の未来を照らす
笑顔の国づくりの挑戦。



「私の母国ネパールでは、毎年二〇〇万人もの若者が他国へ出稼ぎに行っています。この人材をぜひ日本で活用してほしい」。そう熱弁するのはシャラドライ氏だ。

東京大学大学院に在籍し、IT企業等4社の代表を務める。だが、その出自は、生粋のエリートからは程遠い。

「国費による教育で人生が一変した」と語る彼が描く、ネパールと日本を結ぶ「志プロジェクト」とは？

writer/ Yurii Awashima photographer/ Miyuki Yamada

若者の未来を閉ざす 劣悪な教育環境

ライさんは2024年、ネパール人材を活用する「志プロジェクト」をスタートされました。

私が生まれ育ったネパールは内陸のため産業が乏しく、最大のリソースは「労働力」です。若者たちは働き口を求めて、毎日3000人、年に100万人が海外へ出稼ぎに行っ

ています。しかし安全性の低いインフラ構築の作業員や紛争地域の傭兵として酷使され、悲しいことに、日に3人は遺体となって母国へ帰ってきています。

この問題の根にあるのは、ネパールの劣悪な教育環境です。まともな授業を受けられるのは、都市部にしかない学費の高い私立校のみ。全国の子どものうち、わずか3割ほどしか通えません。一方、公立校には様々な政党の息がかかった

全寮制で徹底的な日本教育を実施する「侍・ブートキャンプ」。勇猛果敢で知られるネパール・グルカ兵の養成施設を下敷きにしている

教師が混在しており、統率がまったくとれていない。生徒を放置して1カ月もデモを繰り返すなど、教育をのちのけで政治闘争に明け暮れているのです。

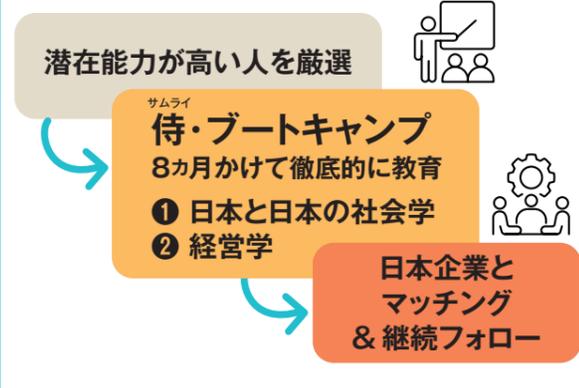
現在500万人の子どもが公立校に通っていますが、こんな環境では知恵も知識も身につかず、過酷な肉体労働に従事するしかなくなってしまふ。ネパールの若者を、そして国の未来を救うには「良質な教育」が欠かせません。

「志プロジェクト」が目指すのは、世界でもトップクラスの教育を提供し、語学はもちろん、自ら考え提案し決断する力を持った優秀な人材を輩出すること。そしてその能力を活かし、他国で安全かつ安定した職業に就いてもらう。とくに日本企業への就職を徹底的にサポートしています。日本は2040年にはおよそ1100万人分の労働力不足に陥るとされ、海外人材の活用が急務ですから。

「志」と題した理由は？

このプロジェクトを経て、母国ネパールに貢献するという高い志を持つてほしい。そして何より私自身が、当事業で故郷に恩返しするという志を抱いているためです。
私が生まれ育ったのは、首都カトマンズから車で10時間ほどかかる、エベレストの麓にあるコタンという

志プロジェクトの全体像



ネパールにおける「海外出稼ぎ」の現状



*1 図説 ネパール経済2025 (在ネパール日本国大使館)

シャラド ライ氏のプロジェクト来歴

- 2011年 YouMe Schoolコタン校 開校
- 2017年 YouMe Schoolモラン校 開校

- 2018年 YouMe Schoolオンライン校 開校
- 2019年 TERAKOYA Academia, Inc. 創業
- 2020年 TAI株式会社 創業
- 2024年 志プロジェクト スタート

村でした。未だにインフラが整って
おらず、幼少期には朝4時に起きて、
1時間半かけて水を汲みに行ったも
のです。ベンガルトラやキングコブ
ラも出没するんですよ。豊かな自然
以外、本当に何もない場所でした。

受験者1万人から選抜 わずか99名の特待生に

10歳の頃、村で唯一のメディアで
あるラジオから「カトマンズのブダ
ニルカントラが全国から生徒を募集

する」という案内が流れてきました。
ネパール国王とイギリスのエリザベ
ス女王が共につくった、教科書にも
載っている名門校です。しかも特待
生は国費奨学金、つまり自己負担ゼ
ロで通学できると。これに父が「挑



上写真は侍・ブートキャンプ一期生
20名。「出稼のため幼少期から離
れて暮らす母を母国に帰してやりたい」「日本で資金とノウハウを貯め、
故郷でホテル経営をするのが夢」
……それぞれの物語や想いを抱え
て日本語学習に励む

戦しろ」と背中を押してくれ、村の
友人たちと丸一日歩いて受験会場に
向かいました。1万人以上いる受験
者の内、特待生に選ばれるのはたっ
た99名。正直「そんな夢物語あるは
ずがない」と思っていました。とこ
ろが試験から一カ月半後、ラジオの
音声に耳を疑いました。合格者とし
て私の名前が読み上げられたのです。
もう言葉にできなかったですね。遠
い夢だと思っていた人生が、にわか
に現実になったのですから。

奇跡のような出来事だったと。

まさにそうです。山間の村で水牛
の背に乗って口笛を吹いていた少年
が、ある日突然、王族の子どもと机
を並べて勉強することに……なんて
信じられますか？ あの時、間違い
なく私の人生は変わったのです。

ブダニルカントラ校は全寮制で、制
服代、食費、年2回の帰省にかかる
交通費、小遣いに至るまで、すべて
を国が支払ってくれました。小学4
年生から高校卒業までずっとです。
そして村にいた頃には想像すらしな
かった様々なチャンスが私の前に現
れました。生徒会長を務めていた高
校3年生の時、日本の外務省から学

生大使として招かれたのもそのひと
つです。今や日本は私にとって第二
のふるさとですが、そのきっかけと
なった忘れたい体験です。

幼い頃から「ネパール」という美し い国に生まれてよかった」と感じて いましたが、特待生になって恩義は 何倍にも膨らみました。「母なるネ パールのために私は生きるのだ」と。

——周りの学生も同じ志を抱いてい
たのでしょうか？
いえ、卒業生の多くはアメリカな
どへ出てしまい、故郷にはほぼ帰り
ません。ブダニルカントラ校はもとも
と、ふるさとに貢献できる人材を
育成すべくつくられました。しかし
現在はその志が失われてしまってい
る。育ててもらった恩を差し置いて、
他国の経済だけを支えているのです。
ネパールは産業がなく、国として大
変苦しい。病気で死にかけている母
親を見殺しにするようなものです。

8カ月で原石をダイヤに！ 「侍・ブートキャンプ」

——母校の本来の意義を復活させた
のが志プロジェクトなのですね。
費用はすべて運営側の負担、全寮

制で徹底的に鍛えるスタイルも母校
から継承しました。そこに日本の侍
魂を加えたのが、本プロジェクト
の要となる職業訓練学校「侍・ブー
トキャンプ」です。今年1月に開校し、
応募者2500人から厳選した20名
が一期生として通っています。

敷地内は、濃密な日本。入り口
には手作りの鳥居があったり、ひな
人形が飾ってあったり……文化、法
律、生活、ここでは何もかもが日本
基準なのです。「電車やバスでは通
話しない」常に相手のことを考えて
チームワークを重んじる」などのマ
ナーや姿勢も教えます。生徒た
ちは8カ月間、外界から完全に遮断
されて「日本の当たり前」をその身
に染み込ませるのです。

まさにサムライになる修行と言
いますか、すべてを懸ける覚悟で取り
組まなければ、わずかに8カ月で原石
をダイヤに磨き上げることは不可能
です。連日、朝5時から夜10時まで
プログラムがありますし、タバコも
本、酒1ミリでも口にしたら即退学。
親族の葬式以外は帰省もできません。
侍・ブートキャンプには2本の柱
があり、ひとつは先ほど申し上げた

ように「日本を学ぶ」。在留資格に
必要な日本語能力検定N4レベルを、
合格ラインの50%得点ではなく満点
を目指して磨き上げます。もうひと
つは「経営学」を通じたキャラクタ
ー・ビルディング。つまり自身の頭
で論理的に考え、リーダーシップを
とれる力を持ち、トップから頼りに
される「人格」をつくり上げていく。
その成果が見た目にも表れるのか、
生徒たちはみるみるうちに精悍な顔
つきになっていきます。

かつてない経済成長を迎えつつあ
るインド市場でも力を発揮できるよ
う、ヒンディー語も学ばせています。
日本とインドでは企業文化がまった
く異なりますから、両者のマインド
セットを理解できるネパール人材は
今後非常に重宝されるはずですよ。
開校してすぐ、私は生徒たちを母
校へ連れて行き、在学中使っていた
ベッドに腰掛けてこう語りかけました。

「国が僕にくれた、人生を変えるチ
ャンスを、君たち20人にも提供し
ます。『この学校を卒業すれば、無
料で日本に行けて、就職できてネパ
ールの何十倍も稼げる』——そんな
前例をつくってほしい。そして、こ



日本のオフショア開発委託を受ける「TAI株式会社」は職員の多くが
日本語でコミュニケーション可能。日本の大企業勤務を経てネパールの
未来のため転職したメンバーも多い。この利益が志プロジェクトの
運営費用になっている



はできる」と知らないまま人生を終えてしまう子どもたちがいる。出稼ぎ先で365日一切の休みなく働かされた旧友もいます。「みんなが良いい教育を受けられれば。それが、奇跡ではなく、当たり前前だったら」と悔しかった。すべての川が海へと通じるように、志プロジェクトも私設学校もIT企業も、すべての流れはネパールという海に通じています。国を真に支えるのは、完璧なインフラよりも、子どもがダイヤとして輝ける環境です。それを叶えるためならどんな試練にも笑顔で挑みます。

1000万円の赤字を抱え絶望しかけたコロナ禍

——これまでに最大の試練とは。

2017年、大学院に在籍しながら2校目の私設学校を開いた直後です。バイト代や奨学金を教師の給料や運営費に充てていましたが、すぐに資金が底をついて、翌年には赤字が1000万円を超える有様でした。「誰でも通える学校」は絶対条件なので、学費を上げるわけにはいきません。さらにコロナ禍で通えない学生が増え収入は激減。進退窮まっ

て閉校の瀬戸際までいきました。生徒たち、「この学校じゃなきゃいやだ」と泣いていたな、でもどうすれば……。研究室の窓からどんなより重たい空を眺め、考えて、考えすぎて、笑うことも忘れてしまった時、野村総合研究所に務める友人から「ネパールでIT企業のパートナーを探している」と連絡があったのです。やりたいことを突き詰めてい



シャラド ライ Sharad Rai
1987年生まれ。ネパール・コタン郡出身。2011年立命館アジア太平洋大学 (APU) 卒、2014年東京大学大学院卒、現在博士課程に在籍。日本型教育の学校、NPO法人 YouMe Nepal 代表、ネパールのITエンジニアと日本企業をつなぐ TERAKOYA Academia, Inc. 代表、ネパールに開発拠点を置くITコンサルTAI株式会社CEO、ネパールの若者の日本就労をサポートする志プロジェクト代表。

れば、神様が扉を開けてくださるんですね。「なら私が起業します」と業界未経験なのに手を挙げて(笑)。無謀な挑戦でしたが、周囲の支えで収益をあげるまでになりました。学校を存続させることができました。志プロジェクトを立ち上げられたのも、この時思いついてIT業界に飛び込んだおかげです。素晴らしい仲間を得たことで、他にはない、永

続的なアフターケア・システムも構築できました。本プロジェクトの一期生は本年9月に卒業ですが、すでに14名が宿泊・外食業、介護施設などの日本企業から内定をいただいています。しかし、私たちのサポート

は「マッチングしたら終わり」ではありません。独自に開発したアプリを通じて、24時間リアルタイムで卒業生の勤怠や精神状況、日本語での躰きなどをチェックし、メンタリングやフォローを続けます。企業様とも月に一回評価レ

志プロジェクト

今回ご紹介した志プロジェクトにおける卒業生の受け入れを検討してくださる企業様や、現地で学習支援をしてくださるボランティアを募集しています。その他のネパールと日本をつなぐ様々な事業・活動についてのお問合せ、支援のお申し出なども以下にご連絡ください。

contact@tai.com.np



ポートをやり取りして信頼性を高め、双方にとってよりよい関係性とビジネスの成果を育んでいくのです。ゆくゆくはこのエコシステムに、起業時におけるファンドへのアクセスやリサーチ、ビジネスコンサルの機能も組み込むつもりです。そうすれば、いずれ卒業生が「ネパールに帰ってビジネスを始めたい」と考えた時、資金調達や市場調査、登記など、不安な点を丸ごと解決できる。カトマンズの空港に降り立った瞬間から社長になれるのです。そうしてエコシステムがどんどん充実、発展していけば、ネパールの産業そのものが育っていく。母国も、日本も、関わる仲間たちみんなが笑顔になれる国づくりが現実となるのです。

李炯植

Lee Hyonshigi

Learning for All 代表理事

子どもの貧困の

本質的解決に挑戦。

システムチェンジで

格差なき社会へ突き進む。



「努力しないのが悪い」「できないのだから仕方ない」
非正規雇用やシングルマザーなど苦しい状況に喘ぐ人々に
突きつけられる自己責任論。それにNOを唱えるのが、
認定NPO法人Learning for Allの李炯植代表理事だ。
「経済的要因で夢を諦めるしかない、その社会こそが問題」
貧困地域に生まれた「当事者」ならではの視点で目指す、
すべての子どもが可能性を追求できる仕組みに迫る。

writer/ Yurii Awashima photographer/ Miyuki Yamada

**低所得者が多い団地から
富裕層がひしめく東大へ**

— 李さんは東京大学を卒業し、同
大学院に在籍時、Learning for All
(以下LFA)を設立されました。現
在、日本の子どもの9人に1人が貧
困状態にあるといわれていますが、
東大は学生の4割以上が世帯収入
950万円超の家庭出身。^{*2}「貧困」か
らは縁遠い環境に思えます。

まさにそこで目の当たりにした
「格差」がLFA設立のきっかけで
す。そもそも私は兵庫県の尼崎市出
身で、低所得世帯が多い市営団地で
生まれ育ちました。通学路にはホー
ムレスが住まうブルーシートや放置
自転車ざらりと並び、小学校のク
ラスメイトは半数以上がひとり親や

学習支援や居場所づくり、食事支
援等を行う地域協働型の子ども包
括支援施設は全国に37拠点(2022
年度)。地域の中でいかに横のつな
がりを作るかを意識している



生活保護世帯。みんな勉強はほとん
どせず、私立受験という選択肢すら
浮かばない。私も当然、公立中学校
に上がるつもりでしたが、小6の時
の担任が「あなたは東大に行ける学
力がある。私がお母さんに話をつけ
るから受験しなさい」と親に電話し
てくれたんです。それで家庭教師が
ついたのですが、すでに試験まで3
カ月もありませんでしたから、ギリ
ギリで合格できたのは当時の偏差値
で39という中高一貫校でした。
入学後は常に成績トップで神童扱
いだったんです。ところが高1の時、
小学校の同窓会に顔を出したら、受
験を勧めてくれた恩師に「もっと
ポロ雑巾のように絞られて勉強せ
え！」と言われまして(笑)、勝手
にスパルタ塾に申し込まれたんです

よ。でも「人生でそうそうない機会
をせっかくいたただいたんだし」と観
念して猛勉強した結果、東大に現役
合格できました。学校創設百年目に
して初の快挙だったそうです。

そんな出自なので周りの東大生と
話がまったく噛み合わない。名門進
学校出身者も多く、親のカードでバ
ンバン買ったブランドもので全身固
めていたり、外国帰りだったり。こ
っちは「帰国子女」って全員女子
じゃないの？」ときよと顔ですよ。

一方、地元ではかつての同級生が
貧困のただ中で生きている。私が東
大に入学したのは2009年で、リ
ーマンショックの直後でした。尼崎
は工業地域ですから、その煽りをも
ろに受けて失業し、アルバイトをか
けもちしてなんとか食いつないでい
る子もいました。成人式では、3人
目だという赤ちゃんを抱いたシング
ルマザーや、「専門学校に行きたか
ったけど、母親がお金を出してくれ
へんから諦めたわ。自分の彼氏には
貢いでんのに……。もう、縁を切っ
た」と語る友人にも直面しました。
学校に通えることすら奇跡のよう
な環境と、勉強に専念できて高収入

の「勝ち組ルート」に乗れるのが当
たり前な環境。その凄まじいギャッ
プに愕然としました。

しかも地元の同級生の話を東大生
にしたところ「バカだから仕方な
い」という言葉が返ってきたんです。
激しい怒りを覚えました。兄弟の世



日本で暮らす子どもたちの現状



話をしていたから、学費を出しても
らえなかったから、夢を訴えよう
にも殴られるだけだったから、勉強し
たくてもできなかったんじゃないか。
こんなものは「平等な競争」じゃない。
子どもが本来の力を最大限に発揮で
きる環境をつくらねばと、2010
年から貧困家庭の学習支援ボランテ
ィアを始め、2014年にLFAを
設立しました。

**現場支援にとどまらない
水面下の社会構造を改革**

— LFAは子どもの貧困について、
対症療法ではない「本質的な解決」
を目指す掲げていますね。

子どもの貧困問題に取り組んでい
る団体の多くは、一人ひとりに寄り
添う「現場支援」が中心です。私た
ちの目的は、そこを出発点に「仕組
みを広げ」、最終的には「社会を動
かす」こと。確かに、貧困によって
ご飯を食べられず、学習の機会も奪
われている子どもが今ここにいる。
しかしこれは氷山の一角であって、
水面下にはこの現象を生み出してい
る社会構造があります。

*1:厚生労働省「2022年 国民生活基礎調査の概況」より。貧困の定義は「年間の手取りの中央値の半分以下で暮らしている状態」
*2:東京大学学生委員会「2023年度学生生活実態調査結果報告書」より

*3:2022(令和4)年 国民生活基礎調査の概況(厚生労働省)
*4:令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の課題に関する調査結果(文部科学省)
*5:令和5年度 児童相談所における児童虐待相談対応件数(こども家庭庁)
*6:令和6年中における自殺の状況(厚生労働省自殺対策推進室・警察庁生活安全局生活安全企画課)

養育費未払い、女性の社会進出の遅れ、家事や育児といったケア労働が無償なうえ家庭に押し付けられている実態。そんな「仕組みの問題」が横たわっているわけです。さらに男尊女卑や自己責任論など日本の歴史的価値観も結びついています。この構造のままでは、いくら目の前の子どもたちに真摯に向き合い続けても埒が明かない。目指すべきは「システムチェンジ」です。出来事をその背景から解きほぐし、課題の源であ



る社会自体を変革していかなくては。——その発想に至った契機は？

大学で社会階層論や哲学を学んでいた影響も大きいでしょうが、それ以前から「問題の根本は何か」「どういった構造が人の認識をつくるのか」といった点を深く洞察する癖がありました。あとは自分自身の認知を別アングルに切り替えてみるとか。高校時代、退屈な授業をする英語教師がいたんですよ。生徒からすると時間泥棒だけれども、「そういうや

社員やボランティア、寄付者、企業など関係するそれぞれの目指すビジョンや事業計画が交差し、組織も個人も成長していく



「我々の仲間」として送り出しています。そうして旅立っていった仲間たちは累計3000人にのぼります。

「現場支援の次のステップである『仕組みを広げる』に直結しますね。」

おっしゃるとおりです。ボランティア経験者からのご縁でゴールドマン・サックスから資金支援をいただき、2021年には「地域協働型子ども包括支援基金」を構築できました。これまで9つの団体に1億円を超える助成を実施しています。

全国の子ども支援者が知見や想いを共有できるようにと、オンラインプラットフォーム「こども支援ナビ」も同年に開設しました。学習指導や経営にまつわるノウハウもすべて開



李 炯植 りひょんしぎ

1990年兵庫県生まれ。東京大学教育学部卒業、東京大学大学院教育学研究科修了。2014年に特定非営利活動法人Learning for Allを設立、同法人代表理事に就任。全国子どもの貧困・教育支援団体協議会 副代表理事。2018年「Forbes JAPAN 30 UNDER 30」に選出。2022年「こどもの居場所づくりに関する検討委員会」(内閣官房)の検討委員に選出。

示しています。モデルケースが増えれば増えるほど、全国で好事例が生まれ、最終ステップである「社会を動かす」の実現に近づきますから。

——昨年、LFAの居場所づくり事業もモデルとなった「児童育成支援拠点事業」が法定事業化されました。現場でモデル化し、政策提言まで

一貫通貫で行う。いわば国の研究開発を代行しているようなものですね。私たちの収益は8割が寄付です。これは「支援がまだ届いていない子どもたちへ手を伸ばす」ため。行政では予算がつかない領域に踏み込み、新しい事業を起こす。寄付金を政策につなげて、社会にコミットする。このサイクルを絶えず回し続けられ

昔はうどん屋をやっていたらしいな。なんで教師になったんやろ」と根っこや裏側にあるストーリーに目をやると面白くなってくる。現実を新たな尺度で捉えられるんです。

一生ものの経験によって貧困問題を「自分ごと」に

——「システムチェンジ」を起こすための具体的な方策を伺えますか。

最初ステップである「一人に寄り添う」＝現場支援では、6〜18歳を対象に、居場所づくりや学習、食事などのサポートを多角的に行っています。学習支援はいわば無料の塾ですね。大学生のボランティアが講師となって個別に指導します。複雑な家庭環境や発達特性を抱えた子どもも多いので、ボランティアに参加する前に40時間にわたる研修をみっちり受けてもらいます。不用意な一言で子どもを傷つけてしまわないように、貧困という課題を理解し、ロールプレイを交えながらレベルの高い指導方法を身につけていく。

なかには受験指導しているのに宿題をやってこない子もいるわけです。しかし「何で一緒に頑張ってく

社会においても「子は鎧」分断を乗り越える希望に

——LFAのメンバーには大手コンサル会社や広告代理店、ゼネコン経験者など、いわゆる「勝ち組」ルートに乗っていた方が多くいらっしゃいます。そこから外れてでもLFAで活動したいと彼らが感じる理由は？

「子どもの貧困の本質的解決」というビジョンから一歩も逃げず、その覚悟とそこへ至るための事業戦略を明確に示す。ゆえに共鳴してくれる方が多いのではないかと。そして関わってくださっている皆さんが志す「個人のビジョン」との結節点も大切にして、相互に自己実現を図る。それぞれが学び続けることで組織も成長しますし、一人ひとりの人生の可能性も最大化できればと。

東大に入って私の前にも「勝ち組」への道筋が拓かれましたが、無批判にそこへ向かうのは、のっぺらぼうで怖い生き方だなと思ったんです。何が幸福かは自分で選び取りたいし、様々な立場の方と共に生きていき

れないんだ」と憤っては二流の支援者。私たちはそこでもっとも純粋な「子どもの未来を応援したい」という願いに立ち返るんです。そのうえで「なぜその子は目標に真っ直ぐ向かえていないのか」「ベストな状態に導くにはどうすればいいか」を考える。

——表層ではなく根本を見つめる思考がここでも効いてくるわけですね。

私たちの学習支援のゴールは「良い学校に行かせる」ことではありません。勉強の仕方を教えて、「入った学校やその先でも学び続けられる」姿勢そのものを確立すること。

これはボランティア側にとっても同様で、一過性ではなく一生ものの経験を提供したいと考えています。そのためには事後研修で「何を学び、達成できたか」を棚卸してもらおう。そうすることで、子どもの貧困という問題が自分ごとになるのです。

社会は網の目状になっていて、大手企業に入ろうが、教師になろうが、省庁に務めようが、誰もが貧困世帯の子どもの分ちがたく繋がっている。「あなたも生涯にわたって無関係ではられない当事者のひとりなんだよ」というメッセージと共に



い。そして子どもたちにも自己決定のもと、主役として人生を堂々と進んでほしい。私たちは彼らの補助輪であり、通過点に過ぎません。だから「冷たく抱きしめて、温かく突き放す」をモットーにしています。冷静に接しつつ「いつでも戻ってきていいよ」と送り出すのです。

夫婦のみならず社会においても「子は鎧」だと感じます。孤独や分断が叫ばれている今こそ、子どもを中心にした地域づくりによって、人と人はきつと手を繋ぎ合える。私自身もLFAを通じて素晴らしい仲間と出会い、社会に希望を持てました。この国の未来そのものである子どもたちが思うまま輝けるよう、ぜひ手を差し伸べてほしいと思います。

Learning for All

個人・企業のサポーターを募集しています。たとえばご寄付、ボランティアへの参加、活動説明会への参加など詳細については下のQRコードからご確認ください。また活動に関するお問い合わせも。

pr@learningforall.or.jp



モーグルオリンピックが 信用組合の営業職に! 資格取得で人生を新開拓 星野純子



ス キーモーグルの選手としてソチ五輪や北京五輪に出場し、2022年、32歳で現役を引退しました。元オリンピックと言っても、いざ社会に出てみると、職務経歴書に記入できる経験やスキルが何もない。フリーランスとしてスキー関連で生計を立てようにも、オフシーズンの夏はぼっかり時間が空く。将来への不安を払拭できればと、昨年5月に研修に参加しました。あんなにじっくり自分と



向き合った時間は、競技人生でもありませんでした。潮崎先生や同期と対話を重ねるうち、私の本質「がどんどん露（あらわ）になっていく。相手の言葉に涙が溢れるなど、普段初対面では絶対に明かさな心奥の奥まで自然とさらけ出せました。

研修を機に拓けたのは 思いがけない金融の道

私の最大のネックは「社会人として自信が持てない」こと。研修で社会へ羽ばたいた元競技者の生の声を伺ったこと、人生設計に必要なお金を算出できたことは大きな転機でした。「まずは一般企業でスキルを磨こう」「経理・財務の知識をつければ個人事業主になっても役立つはず」とビジョンを具現化できたのです。業界未経験者OKの就職

先を探し、昨秋、長野信用組合に採用され、松本営業部に配属されました。投資信託などの商品を紹介できるよう資格取得に励む日々です。大変だけれど自分が磨かれていく実感があります。今後はスキーイベントを開催して会社の地域貢献に寄与するなど、人生を丸ごと活かして新たなキャリアを築きたいですね。



研修の第1部では3泊4日で「根っこの気持ち」を掘り下げ、自身が生涯をかけて取り組みたい、真に充足感を得られるもの」を探求

[アスリートキャリア支援事業] 引退後も夢は描ける。 トップアスリートに 輝く第二の人生を!



世界の檜舞台で活躍するアスリート。しかし、引退後にキャリアを築けず、経済的に困窮するケースも少なくない。将来への不安を払拭して「新たな夢」を具現化する、かつてない支援の形とは。

性をもたらしてくれるはずですよ」
そう熱弁するのは、この事業の発起人高野 佑氏（山田コンサルティンググループアジアスリートキャリア支援推進室室長）だ。コンサルとしての知見とネットワークで、引退後の選手たちを長期的に支援する仕組みを立ち上げた。
「2024年2月に第1期生を迎え、これまでに計4期、累計17名が参加しました。受講は無料です。アスリート側の負担はゼロ。まずは研修で『自身の新たな夢』と『キャリアの具体的な方針』を描き出す。研修後は、お付き合いのある企業や金融機関へのインターン紹介、起業コンサルなど、きめ細かいフォローを行っています。

ゆくゆくは子どもたちが将来への不安を抱かず、スポーツに思う存分打ち込める社会を実現したい。夢を諦めずに走り続けられる。世界が私の理想です」
2部構成の研修により「自己実現」の道を発見
合宿形式の第1部では「自身の個性・可能性を深く多面的に

分析し、目指したい姿を設定」する。講師は人事教育コンサルタントの潮崎通康氏だ。
「現役時代のプライドや方法論からいったん離れて、『自分が真に充足感を得られるもの』は何かという、根っこの気持ち」を掘り下げます。受講生の「このプロセスがなければ、選手人生に傷をつけないよう無難な道

しか選べなかった」という言葉が印象的でした（潮崎氏）
第2部では、様々な分野のゲスト講師を招き、コンサルティング会社ならではの視点で、マネージャーや事業計画等のビジネス知識をレクチャー。
「就職・起業どちらも視野に入れ、人生をリスタートさせるためのライフプランを構築します。



第2部ではキャリアプランの具体的な方針を持つための基礎知識を習得

先輩オリンピックアスをゲストに招き、経営者や指導者、一般企業の社員など、様々なロールモデル

と接する機会も設けています。自己実現する道はいくつもあること、社会に参画する面白さを知ってほしいですね（高野氏）
受講生は、信用組合や市役所に就職したり、コンサルタント資格を取得したりと、ますますな未来へ果敢と踏み出している。新たな人生と、スポーツ界の健全な明日がその先に待っている。

山田コンサルティンググループ株式会社
アスリートキャリア支援推進室
・活動目的 引退後のアスリートのキャリア構築と、国内企業の人材不足解消を通じた社会問題の解決
事業についてのお問合せ・参加希望のお申し出は
takanoy@yamada-cg.co.jp
アスリートキャリア支援推進室室長 高野

山田コンサルによる「アスリートキャリア支援」の取り組み

研修に始まり、研修終了後もアスリートが次のキャリアを着実に歩めるよう長期間にわたってサポート。

第1部
マインドチェンジ

第2部
スキル習得

起業コンサル
インターン紹介

卒業生
コミュニティ

研習

研習後サポート

アスリートが置かれている現状

現役時代には競技に集中し、引退後に経済的な問題に直面する人が少なくない。

日本の主な
プロスポーツリーグの
登録抹消者数(推計) *1

約400人/年

オリンピックの
平均引退年齢 *2

29.9歳

各団体によるキャリア支援の状況
「セカンドキャリアという考え方に関する教育」を実施している割合 *3

競技団体・JTL加盟チーム **35.5%** 大学 **50.0%**

*1:プロ野球・プロサッカー・プロバスケットボールの各公表データより山田コンサルにて集計(2023年) *2:徳川スポーツ財団「オリンピックのキャリアに関する実態調査」(2014年) *3:スポーツ庁「アスリートのキャリアに関する実態調査」(2020年)「キャリア支援を行っている」競技団体・JTL加盟チーム、「アスリート学生に特化したキャリア支援を行っている」大学のうちの割合

13

12



知識ゼロから躍進! 日本管財HDの財務統括部で 初の外国人採用 レ・ティン・ロアン



昨 年8月にハノイ貿易大学を卒業し、12月から日本管財ホールディングス株式会社の財務統括部で働いています。会計の道に進むなんて、大学入学時はまったく予想しませんでした。日本のアニメに感動して「字幕なしで観たい」と日本語を専攻したところ、必修科目に簿記があったんです。先輩が講義について

「数字が合わない!」とSNSで嘆いていて、正直、恐怖を覚えました(笑)。でも何度もトライするにつれ「共通のルールに従って計算すればきちんと解が出るんだ」と面白くなってきました。P/LとB/Sが初めてガチャンと噛み合った瞬間の達成感は今も忘れません。

次なる目標は簿記2級企業の物語を読み解く講義はすべてが日本語なうえ「売掛金」など普段使

うことのない用語がバンバン出てきますからいつも必死。簿記3級の試験も1回目ばかり乗り越えて2回目に満点合格できました。それは、教え合い応援し合った6人のチームメイトのおかげです。今の職場も同じ人数のチームなので、温かく支えていただきたびにあの時の経験を思い出します。

特別講義で印象深かったのは、日系のコンサル会社の方が「学び続ける人材が

ほしい」とお話しされていたこと。私もまずは簿記2級、いずればオンラインのストラーリアの子会社でも働ける英語力を目指して成長し続けたい。簿記はただの数字ではなく、企業のストーリーを表すもの。「それを読み解く力があれば、どんな仕事もできるはず!」と未来にワクワクしています。



**ビジネスの現場に生きる
唯一無二のプログラム**

成績優秀者の選抜基準は、簿記の技能に加え、日系企業が重視するチームワーク力も求められる。古久保氏は「大切なのは、ビジネスの現場で活躍する能力を育むこと」と語る。

「ベトナムは個人技で勝負する

文化なので、協調性を養う機会が少ない。これではいざ日系企業に就職しても、管理者とうまく意思疎通できません。講義では6人1組になってもらい、チームメイトと積極的に教え合うよう呼びかけています。ベトナム内にある日系企業の工場や事務所見学、日本で働く先輩による特別講義も行っている。



優秀なベトナム人学生に門戸を開く日系企業も講義をサポートする

「日本でいえば東京大学文系や東京外国語大学にあたる名門です。勉強熱心で知識の吸収が早

く、日本語や英語も堪能。しかも簿記3級や2級を持つとなれば大変優秀な人材です。ベトナム経済が豊かになるにつれ、自国や欧米での就労を望む学生が増えていますから、採用する方々も最大の好機です。実習生ではなく、将来の幹部候補として、彼らの能力を大いに活用していただきたいと思っています」

- ・設立 2008年
- ・所在地 東京都千代田区丸の内1-8-1 丸の内トラストタワーN館8階
- ・理事長 玉川雅之
- ・活動目的 ベトナム国民に対する、日本語による複式簿記の普及活動を通して、会計基盤の確立に寄与することを目的とする

問合せ Tel. 03-6212-1657
事務局 船山・上田



写真は本年の「会計実務研修」。2018年7月には日本とベトナムの経済関係促進に貢献したとして日本の外務大臣表彰を受けた

ベトナム簿記普及推進協議会は、日本語で複式簿記を教え、ベトナム経済へ貢献すべく2008年に設立された。元国税庁長官で会の名誉理事長である大武健一郎氏は、長官時代にベトナム国家税務総局から相談を受け「所得税導入」を手伝った人物。大武氏の「日本とベトナムには

歴史上深い繋がりがあり、ベトナムでは今も日本を親密に感じてくださっている方が多い。この縁を鑑みベトナム経済へ是非貢献したい」という熱い想いに賛同した山田グループ創業者、故・山田淳一郎がサポートを申し出て、設立から山田グループが事務局を務める。

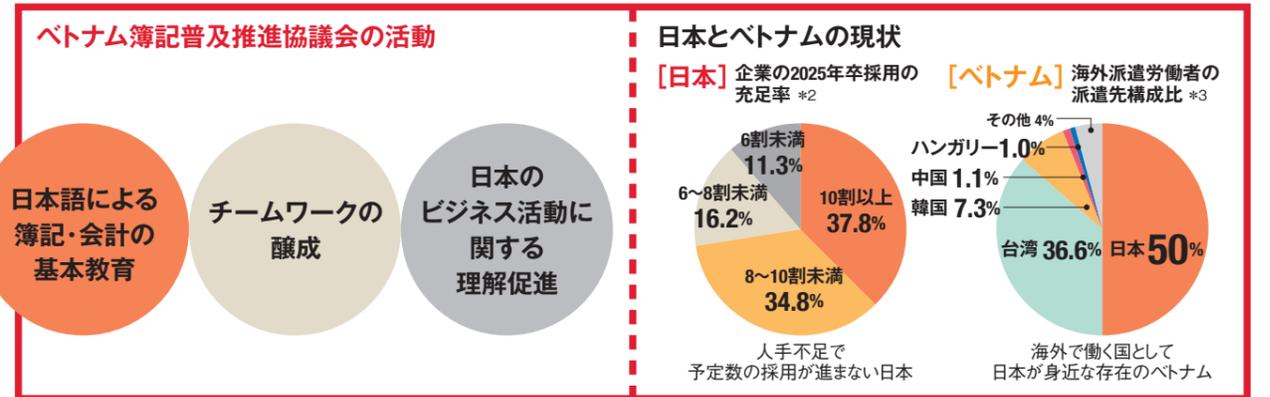
がとも多いですね。学習の励みとなるよう、成績優秀者は年に一度、日本での『会計実務研修』に招待しています。2週間の滞在中、会計・財務のプロフーム等で職業体験をしたり、企業が求める人材についてお話を伺ったりする。生の空気に触れられる貴重な機会です」

[NPO法人ベトナム簿記普及推進協議会] 日系企業で即活躍! ベトナムの若者に 簿記と協働教育を。

「日本語での複式簿記普及」を掲げ、名門大学等で教育に努める当協議会。会計知識に加えて、チームワーク力も磨き上げる唯一無二のプログラムにより「日系企業で輝く人材」を数多輩出中だ。

教務主幹でハノイ代表を務める古久保英朗氏は「複式簿記の浸透は所得の把握や、企業成長のための経営状況の診断に必須であり、簿記の浸透は今後のベトナムの経済発展に繋がっていくはずです」と語る。現在は、日本とベトナム両政府による国際人材育成機関「VJCC」、ハノイ貿易大学、ハノイ大学にて日本語による簿記教育を実施。ベトナムで受験できる「日本ビジネス技能検定協会」の簿記検定において、3級や2級の取得も目指す。修了生は年間約300名、累計2,800名以上(2025年6月時点)。「2つの大学での講義は日本語学部の生徒が対象です。『日系企業で働きたい』と意欲を燃やす学生がとて多いですね。学習の励みとなるよう、成績優秀者は年に一度、日本での『会計実務研修』に招待しています。2週間の滞在中、会計・財務のプロフーム等で職業体験をしたり、企業が求める人材についてお話を伺ったりする。生の空気に触れられる貴重な機会です」

*1 ベトナム-日本人材開発インスティテュート



*2:「充足率とは 採用計画、未達は6割超」(日本経済新聞電子版 2024-10-23)より山田コンサル作成
*3:「2023年の海外労働者派遣、日本向けが最多で6万人、過去最高水準に回復」(日本貿易振興機構 2024-2-1)より山田コンサル作成



開発途上国に学ぶ喜びを！ 奨学金で東南アジアへ留学。 夢に近づいた“輝く体験”。

小畑愛花

「私」は、「いつまでも努力し続ける人」になりたい」
山田淳一郎奨学金の応募課題作文、その冒頭に綴った一文です。幼い頃から小学校教諭になるのが夢で、中学の時に青年海外協力隊の活動を知ってからは「開発途上国の初等教育を支援したい」という想いも生まれました。困難な道でも、諦めずに挑戦し続けなければと種は芽吹く。母子家庭の私にとって、この給付型



の奨学金に選ばれ、広島大学の初等教育教員養成コースに進学できたのは、夢への大きな一歩でした。面談で受け取った忘れられない一言
生活費はアルバイトで賄い、奨学金は夢のために貯蓄。そして大学4年生の時、その資金で、開発途上国の教育現場を知る旅へ出か

きました。実は出発前、増田代表理事との面談で「見知らぬ国に一人で行くのが本当はとて怖い」と打ち明けたんです。そうしたら「不安に思うのは、その先に可能性があるから」と背中を押してくださいました。実際、その旅で得た学びは一生の宝物となりました。カンボジアとラオスで学校教育のサポートをしたのですが、言語もわからなければ教材もない。けれど、か

日本語を教えるなど工夫するうち、途中で離席していた子どもたちが前のめりで授業に参加してくれました。この春から勤務している鹿児島市の小学校でも「わかったー」と輝く笑顔を見せてくれるのが何より嬉しい。まずは目の前の、ゆくゆくは世界の教育に携わりたいと、夢は膨らむばかりです。



「エンジニアになって農業とITを掛け合わせたい」大学で身につけた英語力を、外国籍の従業員が多く働くなかで活かしたい。かつて作文に綴った夢、あるいは進学先で見つけた新たな目標を追いかけて、若者たちは未来へと羽ばたいている。

による、鹿児島の若者のための財団です。県の教育委員会や社会福祉協議会等で要職を経験された方々が実質手弁当で運営してくださっています」と語る。支援は奨学金の給付にとどまらない。コロナ禍においては奨学生とのオンライン面談を実施したほか、今年2月には「奨学生交流会」を開催。1期生から

6期生まで、年齢や学校の垣根を超えて32名が東京に集い、グループワークで互いの夢を分かち合った。鹿児島や山田氏にゆかりある講師が「自己実現」について説くなど、学生の視線を常に、今よりもっと高い所へ導いている。大きく広げた夢風呂敷は、鹿児島、ひいては日本を明るく未来へいざなうはずだ。



財団創設者の山田淳一郎氏(左)の思いを受け継ぎ、奨学生の交流サイト運営や、キャリア支援のイベントも実施。右は代表理事の増田氏

- ・設立 2018年
- ・所在地 鹿児島県鹿児島市高麗町14番地1 税理士法人宇都宮会計内 公益財団法人山田淳一郎奨学金財団
- ・代表理事 増田慶作
- ・活動目的 鹿児島県内の高等学校を卒業し、大学進学する優秀な生徒に奨学金を支給し、社会に有用な人材育成と鹿児島県内の教育水準向上に寄与する。

問合せ Tel. 03-6212-2510
事務局 池田・大平 (山田コンサルティンググループ内)

「若者よ夢を持とう。大きな夢風呂敷を広げよう。そしてその実現を目指して努力し、いつの日か夢を現実のものにしよう」

山田氏は1947年、鹿児島県旧国分市に生まれた。母子家庭で育ち、鹿児島県立鶴丸高校卒業後は給料をもらいながら学べる国鉄の教育機関・中央鉄道

学園に進学。国鉄勤務を経て公認会計士を受験し、合格後は法律事務所まで知識を実装して学びを深めた。34歳で設立した山田会計事務所では「専門性と人間力を磨け」と社員教育に力を入れ、今ではそれぞれ千名を超える「税理士法人山田&パートナーズ」山田コンサルティンググ

● 校長先生が推薦する者
● 向学心が高い者
● 経済的に裕福とはいえない者
● とくに重視されるのは「向学心」「志」で、選考には作文が課される。採用された奨学生は2019年の1期生から数えて、これまで7期、累計142名だ(内、卒業生は計3期で46名。



鹿児島県内のシェア8割超という南日本新聞に、2021年から毎年奨学生募集の全面広告を掲載(左は2024年8月31日版)

[公益財団法人山田淳一郎奨学金財団]

鹿児島から、日本を 背負って立つ人材を! 志高き若者を全力支援。

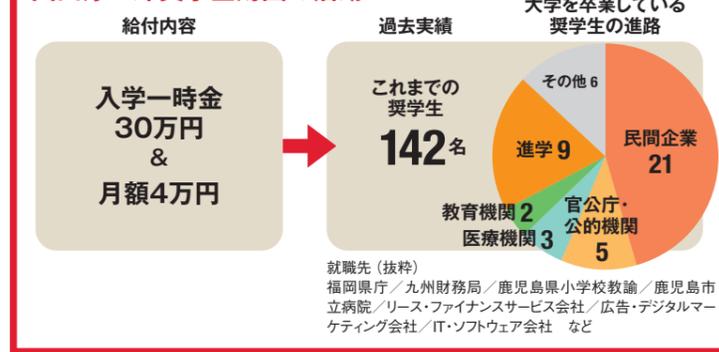
大学進学率「全国最下位」の鹿児島県。県の高校生が夢を抱いて進学できるよう立ち上げた本奨学金は、返済不要の「給付型」だ。選考基準は“高い志”。背景には創設者の熱い思いがあった。

ループ株式会社」へと大きく成長を遂げている。そして病で亡くなる1年前の2018年、「心から愛する鹿児島と、心から応援する若者のため」山田淳一郎奨学金財団を立ち上げたのだ。

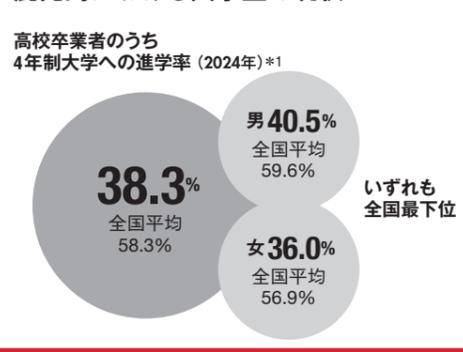
奨学生同士の交流や キャリア支援も実施

本奨学金は返済不要の「給付型」。学業のためであれば家賃や生活費等に使用しても構わない。入学一時金の30万円に加え、大学卒業までの4年間(医学部等は6年間)、毎月4万円が交付される。応募条件は、左記の4点すべてを満たすこと。

山田淳一郎奨学金財団の活動

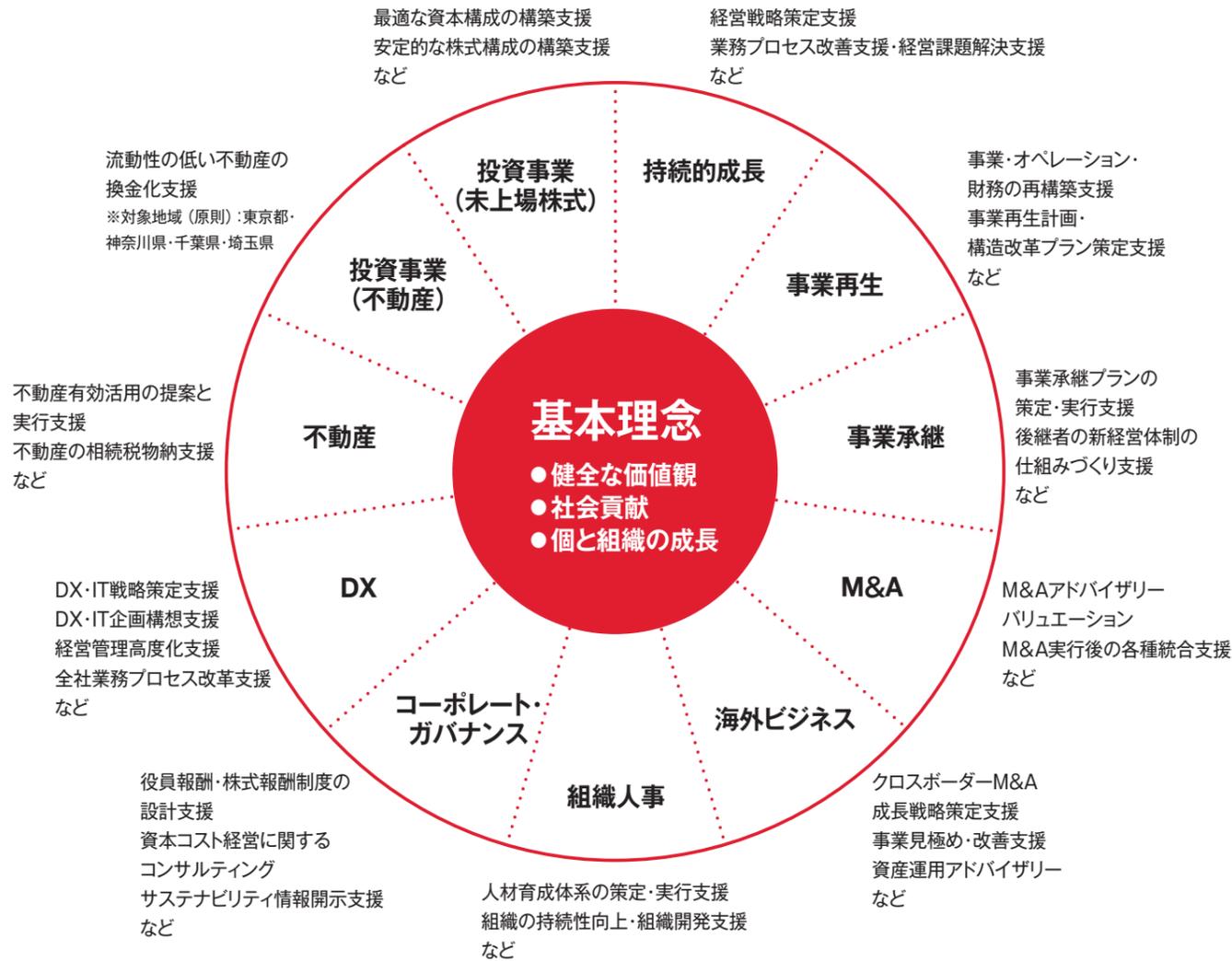


鹿児島における大学生の現状



*1:学校基本調査(文部科学省)より山田コンサル作成

サービス領域



山田コンサルティンググループ株式会社

| | |
|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 設立 | 1989年7月10日 |
| 代表者 | 代表取締役社長 増田慶作 |
| 本店 | 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1丁目8番1号 丸の内トラストタワー N館10階(受付9階) |
| 資本金 | 15億9,953万円 |
| URL | https://www.yamada-cg.co.jp/ |
| 上場取引所 | 東京証券取引所 プライム市場(証券コード 4792) |
| グループ総人員数 | 1,155名(臨時従業員含む。2025年4月1日現在) |
| 免許・登録 | 宅地建物取引業者免許 国土交通大臣(2) 第9313号 一般不動産投資顧問業 国土交通大臣(一般) 第1294号 第二種金融商品取引業、投資運用業 関東財務局長(金商) 第3075号 一般社団法人 第二種金融商品取引業協会 加入 一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 |
| 有資格者数 | 公認会計士 27名/税理士 36名/弁護士 1名 司法書士 24名/社会保険労務士 6名 中小企業診断士 36名(2025年4月1日現在) |

| | |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 国内拠点 | 盛岡、東北(仙台)、郡山、東京、浜松、名古屋、京都、大阪、神戸、岡山、広島、九州(福岡)、熊本 |
| 海外拠点 | シンガポール、インドネシア(ジャカルタ)、インド(グルグラム)、タイ(バンコク)、ベトナム(ホーチミン、ハノイ)、UAE(ドバイ)、マレーシア、中国(上海)、アメリカ(ロサンゼルス、ニューヨーク、ホノルル)、韓国(コヤン) |
| 国内主要子会社 | 山田インベストメント株式会社 山田ファイナンシャルサービス株式会社 相続あんしんサポート株式会社 ピナクル株式会社 |

当社へのご相談、ご住所やお宛名、発送数の変更、配送停止、その他ご感想やご意見は下記フォームより、お気軽にお問い合わせください。お問い合わせいただいた内容は確認後、5営業日以内に担当者よりご連絡させていただきます。

<https://forms.office.com/r/Zb5eP7LbDn>



NEWS

アメリカでの体制強化を目指し、
ニューヨークとホノルルに拠点を開設



当社はニューヨークとホノルルにオフィスを開設。これにより、当社全体の海外拠点数は13となりました。2018年にロサンゼルスで現地法人を設立し、2024年4月にはTakenaka Partnersをグループ化。アメリカ国内での事業の幅を広げてまいりました。今後は各エリアに応じたサービスを提供し、日系企業を含むアジア企業やアメリカ企業のグローバルな事業展開を支援いたします。



<https://www.yamada-cg.co.jp/press/2159/>

当社代表の増田が経済アナリスト・馬淵磨理子氏の
YouTubeチャンネルに出演



YouTubeチャンネル「馬淵磨理子の株式クラブ」にて、当社代表取締役社長 増田慶作のインタビュー動画が公開されました。馬淵氏は法人のファンド運用担当、金融メディアのシニアアナリストを経て、一般社団法人日本金融経済研究所 代表理事、大阪公立大学客員准教授に就任。テレビ番組にも多数出演されています。動画内では、当社の強みと人材・事業戦略、株主還元の方針について増田が話しております。



<https://www.yamada-cg.co.jp/press/2186/>

英国メディア「The Worldfolio」に
当社代表・増田のインタビューを掲載



シンガポールに本社を置く英国のグローバルニュースサイト「The Worldfolio」に、当社代表取締役社長 増田慶作のインタビュー記事が掲載されました。「The Worldfolio」は、国際的にビジネスを展開する企業のリーダー等にインタビューを行い、世界中に発信しています。増田はインタビュー内で、当社の強みと人材・事業戦略、M&A市場やコンサルティング業界のトレンド、海外展開を含む当社の今後の展望についてお話ししました。



<https://www.yamada-cg.co.jp/press/2176/>

第36期事業報告書を発行



当社の業績や取組みをお伝えする「第36期事業報告書」を発行いたしました。今回は特集として、金融機関や事業会社に長年勤めたのち、当社にキャリアチェンジして活躍する「シニアエキスパート社員」をピックアップし、3名の社員が取り組んでいる事業やビジョンを語りました。また、人口減少によって起こる「労働供給制約社会」の概要と当社事業による貢献についてもご紹介しております。



https://ssl4.eir-parts.net/doc/4792/ir_material_for_fiscal_ym/181819/00.pdf

大阪支店が淀屋橋駅直結の
「淀屋橋ステーションワン」に移転

2025年9月1日、大阪支店は大阪市中央区北浜に移転いたしました。移転先のビルは2025年5月に完成した「淀屋橋ステーションワン」です。新オフィスは床面積を2倍以上に拡大し、Webブースを増設。また、集中ブースやスタンディングデスクなど、業務に集中できる環境を整備しております。今回の移転により、お客様によりいっそう価値あるサービスをご提供できるよう努めてまいります。



広報誌「青星」バックナンバーの
HTML版を公開!



本冊子「青星」のバックナンバーは、これまでPDF版・ebook版の2種類で公開しておりましたが、この度HTML版でも公開することとなりました。PCやスマートフォンで読むのに最適化された状態となっており、より読みやすくなっております。バックナンバーは発行の度に追加していく予定ですので、ぜひ定期的にアクセスしていただければ幸いです。

<https://www.yamada-cg.co.jp/aoboshi/backnumber/>

青星® AOBOSHI
Vol.6

青星(あおぼし)はおおいぬ座シリウスの別名で、冬空に青く輝くことからそう呼ばれています。我々の目指す高く遠い目標の象徴として、全天で最も明るいこの星の名を媒体名に頂きました。※「青星」は山田コンサルティンググループ株式会社の登録商標です

2025年9月5日発行

- 発行 ● 山田コンサルティンググループ株式会社 青星編集室
- 印刷 ● 株式会社ライブアートブックス
- アートディレクション ● 大久保裕文(Better Days)
- デザイン ● 村上知子(Better Days)
- ライティング ● 岩崎悠里
- 撮影 ● 山田ミユキ
- 編集人 ● 坂元奈津子(山田コンサルティンググループ株式会社)



YAMADA
Consulting Group